

らいふプラス

私の作品サイトで売れた 会員制、写真やマンガ投稿



写真の販売サイト「PIXTA」に撮影した写真を投稿する吉村留美子さん(神奈川県座間市)

写真やマンガ、音楽……。趣味でつくった作品を投稿・販売できるサイトが人気を集めている。自分の作品を公開すれば、同好の士からコメントが寄せられるだけでなく、副収入にもなるのだ。新年は趣味の世界で「人気作家」を目指してみよう。

「身近なシャッターチャンスに気付くようになった」と話すのは神奈川県座間市在住の吉村留美子さん(29)。ピクスタ(東京・渋谷)が運営する写真販売サイト「PIXTA(ピクスタ)」を2007年に利用し始めた。息子が遊ぶ様子や日常風景を一眼レフカメラで撮影し、ピクスタに投稿している。

ピクスタは会員が投稿した写真やイラストなどを別の会員が購入できるサイトだ。購入した写真をウェブサイトなどに使う企業もある。投稿するには会員登録した上で写真を選んでアップロードし、テーマやタイトルなどを書き込む。肖像権を侵害していないか、公序良俗に反しないかといった同社の審査を経て、販売可能になる。

スタジオを借り、モデルを手配して撮影した写真を投稿する「プロ」のユーザーがいる一方、吉村さんは「プロにはできない文章を撮るようになっている」という。投稿した写真には、自宅を訪れたガス点検員の手元を写したものもある。こうした日常生活の一場面にすぎない写真も

たが、今では1日平均1万5千件程度の閲覧がある。

マンガ★ゲットでは作品の閲覧数や読者の評価に応じて専用のポイントを獲得でき、その数に応じて報酬を受け取れる。「人気作家ならば、月収20万円以上になることもある」(同社)

ミューカム(大分市)が運営する「同人音楽の森」では自作曲や、既存の楽曲をアレンジした楽譜を公開できる。有料で販売する場合、販売価格は作者が決められる。学校やクラブ活動などで経験があるアマチュア音楽家が多いという。

特徴は有名アーティストの音楽をカバーした作品も投稿できる点だ。同社が日本音楽著作権協会(JASRAC)との手続きを代行するため二次創作もOKだ。投稿された曲や楽譜の半数はJASRAC管理の楽曲で、人気歌手の曲を初心者用に直した譜面なども見かける。

趣味でつくった作品を投稿・販売できる主なサイト

サイト名(運営会社)	特徴
PIXTA(ピクスタ)	写真やイラストなどを投稿・販売。作者数は約7万人
マンガ★ゲット(スパイシーソフト)	マンガを公開。投稿はパソコンから、閲覧は携帯電話のみ
同人音楽の森(ミューカム)	音源や楽譜を公開。有名アーティストの音楽も一部を除きアレンジして投稿可能
nanapi(ロケットスタート)	デジタル機器の使い方や料理の調理法など、暮らしの知恵を文章で投稿

イラストや音楽は苦手だけど、もっと手軽に趣味のノウハウを生かしたい。そんな人にはロケットスタート(東京・渋谷)が運営する「nanapi(ナナビ)」がある。ナナビは暮らしの知恵を文章にして投稿するサイトだ。パソコンの操作から有名ラーメン店での作法まで、記事の分野は幅広い。

■著作権侵害など注意

審査を経てナナビのライターとして登録すると、記事1本につき、200~500円相当のポイントが報酬として得られる。現

金や電子マネーと交換できる。文章が苦手でも書き方やスタイルについて、同社担当者のフィードバックを受けられる。

住所や行動範囲が特定できる写真や文章の投稿は、ストーカー被害などに遭わないために避けたい。また他人の肖像権や著作権の侵害はもってのほかだ。

ネットトラブルに関する著書のある弁護士の宮本督氏は「サイト運営者は投稿作品を審査しているが、侵害の有無をチェックしきれない」と指摘。投稿者に慎重な行動を求めている。

(電子報道部 諸富聰)

電子版
私の利用術

新聞の情報を網羅していくことは仕事柄、とても重要なことです。海外出張も多く、これまでホテルで紙の新聞を手配してもらっていた。電子版は端末とネットワーク環境があれば場所

伊藤忠テクノソリューションズ社長 奥田陽一さん



なった記事や重要な記事を読める。携帯電話の口

ミング機能で海外でも利用できるので、格段に便利になりました。普段は朝、自宅で紙の新聞をさっと読みます。気に

なりました。普段は朝、自宅で紙の新聞をさっと読みます。気に

なった記事や重要な記事を読める。携帯電話の口

紙面イメージが「価値判

永遠に点滅する個人

川上 未映子

ネットナビ

れこそ遺言とか——死者が残したものに触れる機会というものは存在したけれど基本的にアツはひとつ。それ触れるためには対峙する必要があるというか、思いとか時間とかそういうものが文字通り替えの効かなるものとしてそこにあるてしまい、それはけっこうな説得力をもつものだからこそ遺品には一律に意味があるのだし、わたしたちは

メールはそれよりも少し先に携帯電話についていたので何となく使ったことはあったけど、インターネットに初めて触れたのは二千年前に入つてちょっととしてからのことだった。(実際は数年早く普及してた)。ネットという機能というか世界というの、それ出会いたときの驚きはみんなある程度、共有できると思われるけど、わたしは未だに驚きつづけているのだった。それは驚きというよりは不安に近い。インターネットが普及したこと

しが一度冷や汗をかいたのは、あるメーリングリストに加わっているのだから、その中のひとりへ私信を送ったつもりが登録者全員に一斉返信してしまったこと。普通にご機嫌伺いの大した内容のメールではなくかったけれど、これが例え何か個

他にも故人がネットに残した記録

画面に落ち込んだのだった。

んだうなつて漠然と解除するパスワードはた他の頭の中にしかなかれば永遠に失われ、かた文章はほとんど誰でもアクセスできる不會に点滅することにならぬ。考え方によればが宇宙の記憶に同じことにならぬ。「みたい感じで素じるけれど、いずれね。そういえば数年前にはもう古い、これから